

平成二十七年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム・開会の辞

著者	伊藤 克子
雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	21
ページ	3-4
発行年	2016-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1646/00000334/



開会の辞

鶴見大学仏教文化研究所所長 伊藤 克子

ただいまご紹介頂きました鶴見大学学長、そして仏教文化研究所長の伊藤克子でございます。本日は皆様にお出で頂きまして、誠にありがとうございます。

本年は大本山總持寺二祖峨山禪師様の六五〇回の大遠忌の年でございます。ご本山でも十月二十日の大法要を前に一段とお忙しい日々を過ごされている様子が、大学にいても伝わってまいります。本日は總持寺の乙川監院老師においで頂いておりますので、是非ご挨拶を頂きたいとお願いしたのですが、今日はゆっくりと聴衆の一人として参加したいということでございました。

峨山禪師様の「大遠忌」を記念しまして、禪師様のご功績とご遺徳を検証するシンポジウムをここに開催出来ましたこと、鶴見大学学長、そして仏教文化研究所所長として、これに勝る喜びはございません。

実は、今年（二〇一五年）の四月二十三日に、鶴見大学は石川県の輪島市と包括連携協定を締結いたしました。この調印式で輪島市に参りまして、その途中總持寺祖院と永光寺にご挨拶をしてまいりました。この道中の案内を輪島市役所の門前支所の方々がして下さいましたが、その方々が話の端々に瑩山様がああされたことが、あるいは峨山様はどうされたかという風に、まるで今、生きて、そこにいらつしやる人を語るようにお話をされるのが大変印象に残りました。そして瑩山様とどなたか出会ったのがこの山道ですよなどと、今そこで見ているかのように、本当に親しみを込められてお話されるのがとても心に残った一泊二日でございます。

また、輪島市で峨山道のトレイルランニングを開催するという事で、チラシを作りまして参加者を募っているということでしたけれども、全国から六百五十人のランナーが集結したと聞きました。永光寺から總持寺まで、コースとしては七十三キロを走る大会だそうです。峨山禅師様が毎日ここを往復していたのだということを皆さんがお話されまして、それは誰一人知らない者がいないことなのだなと思えました。輪島市の皆さんとお寺の一体感が大変印象に残りました。

六百五十年もの歳月を経て、今なお生きるが如く慕われている峨山禅師様とはどのようなお方だったのかと、今日のシンポジウムを楽しみにしてまいりました。

本日、基調講演を頂く圭室先生をはじめ、講師の先生方にはご講演を頂戴いたしますことにありがたく御礼を申し上げます。ご参加頂きました皆様と共に有意義な時間を過ごせますように期待しております。

本日はどうもありがとうございました。